

幼児の「自然のあそび」の教材化に関する試み

——特に教材化とその決め手になる問題をめぐって——

○佐藤朝代（けやの森学園）

野外活動、人格の陶冶、自然の教育・遊び、生きる力

はじめに

今日の子どもたちが健全に育つためには、家庭、地域、社会、に内在する問題や課題を無視することはできない。たとえば、教育を至上とする現象の下では、子どもたちは、家庭と学校と塾に囲い込まれている、と云った一面を把握できよう。すでに文部省では指導要領を改訂し、全国の幼稚園では、子どもの自主性・主体性に依拠した自由保育が展開されつつある。

本園では、開園当初より自然の教育を旗印に、子どもたちが健やかに伸びていくためには、彼らが、自然の中で遊び、淘汰され、修正されることが必要と考え、積極的に野外の活動を取り入れてきた。

今回は本園が行なってきたキャンプの変遷、その内容と効用とを明らかにしながら、それら自然に向かった遊びが次第に普通の保育のなかに影響し浸透し、大きく効果たらしめた背景、つまり教材化の決め手について、いくつかの視点から検証してみたいと思う。

（本園の概要） 資料 I

（本園の教育方針・システム） 資料 II

（野外活動の変遷と方法）

親元を離れ集団で歩くことを主体とした2泊3日のキャンプを出発点として、次のような活動に広がっていった。

- 春秋の遠足を野辺の探索にする。
- 春秋の花や野菜の栽培、収穫、料理と、労働や生産を体験。
- 卒園生は学習を目的とした登山やハイキング中心のキャンプ（体験による学習）、サマー・スクールを開設。
- 在園卒園共に縦割りの生活を定着させ、多様な人間関係をつくる。更に自立と思いやりを育てる。
- 夏と同様冬の野外の遊び（雪あそび）も取り入れる。
- スノーキャンプに親子で参加、冬の自然を体験する。
- カヌーを中心に卒園生のサバイバルキャンプを行なう。
- 一般社会人を対象に、自然と深く関わるなかで、人間としての感性や能力を呼び覚まし、地球環境のことを考える自然塾を開設、カヌー、スノーキャンプ、熱気球、自然探索を行なう。

○自然の遊びは、課題一斉活動から子ども中心の自発・自主的活動へ。

(キャンプ後の子どもの変化) 資料Ⅲ

本園の、総合教育の頂点にあるキャンプを経験した子どもたちがどのように変化していたか、母親からみた子どもの姿を調査した。それによると、成長した、たくましくなった、自分のことは自分でできるようになった、等が大多数を占めていた。しかし、悲しかった、二度と行きたくない、等の回答もまれにあり、これらは、子どもの暦年令、体力、知力、社会性、経験、兄弟の数、等に深い関係が認められた。

(野外の活動から自然の遊びへ) 資料Ⅳ

自由な保育は、適切な刺激を与えて、はじめて息づいてくると考える。キャンプという鮮烈な野外活動は、子どもの生活にリズムを与え、意欲と活力のある生活をつくると考えられる。

結論と考察

1、主体的に精一杯活動する

プログラムが是か否か、内容が発育発達に則しているか、それらは自然の遊びを効果たらしめる要因として軽んずべきものではない。しかし何より、野外の活動は、子どもが“自ら学ぶ”という主体的活動を保証する環境を与えてやることが重要である。例えば、熱の少々ある子ども、本人が歩きたいといった場合は歩かせることがある。途中、辛くて泣いたりするが、登山後に発熱したことはなかった。むしろ成し遂げたというさっぱりした表情から、深い満足感と自信を読み取ることができる。子どもが自分で意志を決定し、やり遂げようとする意欲は、何にも増して効果たらしめるものである。自然という漠としたもののなかで物事を判断し意志を決定するということはこの時期に大変有効である。本園の子どもたちが自立したと母親が認識するのはこうした背景があったからではないだろうかと考える。また、“集団の力”の作用もみのがせない要因となっていよう。

2、非日常から日常へ

野外活動の効用は、身体を動かし感覚を刺激することによって、人格の基礎となる情操を豊かに育むと考えられる点である。喜びや苦しみの共有は“相手を思いやる情操”を育み、活動の結果はキャンプだけに留らず、普段の生活のなかで、遊びの多様さと人的関係に広がりや深まりとをもって現われる。キャンプで得た自信は次への活動の意欲となって更に展開していく。それをより十全に達成するためには、長い目で個々の子どもをその子ながらに見守り育てていこうとする教師の愛情と情熱を必要とする。自然の遊びは、教育全体のなかでどのように位置づけていくのかということをとらえながら、子どもたちの純粹な心身にむかって刺激し、反復し、定着させ、発展する過程を、一人一人の子どもの中に見出していく作業をともなったとき、必ず心の奥底に沈む有意義な体験になるにちがいないと思う。子どもと教師の人格が対峙する本園の野外活動は、教育の原点としての相互の信頼関係を醸成し、確認しあい、真摯な教育活動を立ちあげていくことを必然化すると考えられる。